



肺癌診療ポケットガイド

大江裕一郎, 渡辺俊一,
伊藤芳紀, 出雲雄大 編

●B6変型・頁256 2016年5月

定価：本体3,800円＋税

[ISBN978-4-260-02506-5]医学書院刊

その名の通り、白衣のポケットにすっぽり入るコンパクトな本であるものの、内容は非常に充実しており、肺癌の診療に必要なことほぼ全て、すなわち疫学、診断、治療、emergency、緩和医療、薬物の副作用対策、合併症のある肺癌、社会資源、チーム医療、臨床試験と非常に広汎な領域が網羅されている。

わが国屈指の施設である国立がん研究センター中央病院の医師、看護師、薬剤師、相談支援室など関連各部署の総力を挙げて執筆されているだけに内容も非常に充実しており信頼がおける。2015年改訂された病理のWHO新分類はもちろん、2017年より改訂されるTNM分類8版も収録されており親切である。推奨する根拠となった臨床試験や文献などについても要領よく記載されており、知識の整理にとっても有用である。

一方、点滴レジメンの詳細など、実際的なことについてもよく記載されており、この本一冊で化学療法の

指示を出すことができる。社会資源の項には高額療養費制度や介護保険などの詳細が、巻末には薬物療法の有害事象共通用語規準(NCI-CTC)第4版も掲載され、まさにかゆいところに手が届く配慮といえる。若い医師からベテランの医師、メディカルスタッフまで肺癌診療、特に薬物療法に関わる全ての人に強く薦められる一冊であることは間違いない。

肺癌領域は現在新薬ラッシュであり、2016年になってからだけでもオシメルチニブ、セリチニブが承認され、ラムシルマブの適応拡大がされた。残念ながらこれらの薬剤については本書には言及がない。また、免疫チェックポイント阻害剤についても2016年の後半から重要な発表が続きそうであり、これらの最新情報がWeb上での追補などの形で提供されるとさらに素晴らしいと感じた。